

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 広島経済大学の建学の精神・大学の基本理念

広島経済大学（以下「本学」という）は、「地域に貢献する人材育成と、地域の経済・文化・スポーツの発展に寄与する」ことを目的に、昭和 42(1967)年に設立された。

経営母体の学校法人石田学園は明治 40(1907)年の創立であるが、校祖石田米助翁は聖徳太子の「十七条憲法」第一条にある「和を以て貴しと為す」を建学の精神とした。

この理念を受け継ぎ、本学園は「常に空理を弄ばないで建設を志し、己に厳であって人を許し、各々分に従って其の責任を果たし、相助け相励まし、もって和気あいあいたる学風を樹立すること」を目指してきた。

この建学の精神を体現するため、広島経済大学を開学した初代学長（石田成夫）は、開学の理想を立学の方針として、「明德」という警句に求めた。「明德」とは、天から受けた靈妙な徳性を意味し、人間が本来持っている「曇りのない本性」を意味する。大学にありては學術の蘊奥を極むることに専念し、しかも學術生活の死活の分かるるところ、いつにその人格の如何にあるを思い、人間形成を重視し、真に学徳一体の完成を目指し、いわゆる大学の道は明德を明らかにするにある。即ち、教職員・学生一人ひとりの本性である「明德」を明らかにすることが、広島経済大学の基本理念である。以下、大学の基本理念は、本学では立学の方針をいう。

平成 6(1994)年に就任した 2 代目学長（石田恒夫）は、この建学の精神と立学の方針を調和し具現化するために、「Be Student-oriented（すべては学生のために）」を行動指針として提唱した。全ての施策決定に当たって、「学生のためになるかどうか」という視点で判断することを求めたものである。

2. 使命と目的

昭和 39(1964)年、理事会で承認された本学の設立趣旨は、「地方出身者を東京など中央の大学に進学させるのではなく、地方の大学において教育・研究をほどこし、地域のために貢献できる人材を育成すること」であった。

この設立趣旨を踏まえながら、「広島経済大学学則」第 1 章第 3 条において、本学の使命・目的を次のように規定している。

教育基本法及び学校教育法に準拠し、経済学専攻の大学として、広く知識を授け、深く専門の學術を教授研究するとともに「和を以て貴しと為す」の建学の精神に基づき、人格の完成を期し、明朗で真理と正義と勤労を愛し、責任を重んじ、品格高く、健康であり、もって国家社会の発展に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

3. 大学の個性と特色

本学は、中四国地方唯一の経済専門大学（経済学部経済学科）として、昭和 42(1967)年に創立された。その後、経営学科、国際地域経済学科、ビジネス情報学科、メディアビジネス学科を立ち上げ、1 学部 5 学科の単科大学として今日に至っている。

なお、昭和 54(1979)年に大学院経済学研究科経済学専攻修士課程、平成 2(1990)年に同博士課程後期課程を設置している。

平成 6(1994)年、「Be Student-oriented (すべては学生のために)」を新しい行動指針として打ち出し、学生のためのカリキュラムを実現するべく数次の改革を行い、平成 17 (2005)年に以下のようなカリキュラムと人材育成目標を決定した。即ち、基礎知識開発、プレゼンテーション能力開発、人間力開発の 3つのプログラムにより、「ゼロから立ち上げる」興動人を育成すること、とするものである。

ものごとを立ち上げるには「基礎学力」と「論理的思考力」が必要であり、これに「人間力」が加わることで、何かを成し遂げようとする強い意志と行動力のある人材が育成される。このような人材を、本学では、「ゼロから立ち上げる」興動人、と称している。

この「人間力」を養うには、学生が自らの身を持って体験する必要がある。そこで、本学では、体験・実践する場として、興動館科目や演習科目、実習科目を数多く設け、さらには各種プロジェクトを立ち上げて実践していくという「興動館プロジェクト」を、学生に提供している。この点に、本学の教育プログラムの特徴がある。

また、常に学生のニーズに応えるとともに地域の経済・文化・スポーツの発展に寄与するために、図書館、メディア情報センター、興動館、体育館、野球場、陸上競技場などを設置してきた。中四国地方ではトップクラスの充実した施設・設備を有していることも、本学の特色のひとつである。